

ちひろ 本を読む人 描く人

<同時開催>

ちひろ 司 修 展

ちひろ美術館コレクション 生誕 220 年 アンデルセンの絵本

2025年9月5日(金)～11月9日(日)

安曇野ちひろ美術館 展示室 1・2

主催：ちひろ美術館

後援：公益社団法人 読書推進運動協議会、日本児童出版美術家連盟

ちひろと本とあなた

いわさきちひろは幼いころ、大正時代に花開いた児童文化を代表する絵雑誌「コドモノクニ」を読み、その世界に憧れました。娘時代には「万葉集」にひかれ、第二次世界大戦後には宮沢賢治の作品をそらんじるほど読みこんでいました。そして、子どもの文化として児童書や絵本が発展していくなかで、ちひろは本のための仕事を多く手がけるようになっていました。絵本、絵雑誌、文学全集、教科書……ちひろの絵のある本を、どれほど多くの人が、目にしてきたことでしょう。

本展では、ちひろと本の関わりをとおして、本とはなにかを考えるきっかけとします。



1 いわさきちひろ 本を抱える少女 1970年



2 いわさきちひろ 本を読む少女 1965年

いわさきちひろ (1918～1974)

福井県武生（現・越前市）に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年紙芝居「お母さんの話」を出版、文部大臣賞受賞。1956年小学館児童文化賞、1961年『あいうえおのほん』で産経児童出版文化賞、1973年『こどりのくるひ』（至光社）でボローニャ国際児童図書展グラフィック賞などを受賞。代表作に『おふろでちゃぷちゃぷ』（童心社）、『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）などがある。



展覧会の見どころ

本のある風景

あなたは本をいつ読みましたか？どこで、どのような本を読みましたか？ ちひろの絵には、さまざまな本が登場します。開かれた本。閉じられた本。どのような本か、絵のなかから本を探して、想像してみてください。

ちひろの読んだ本 描いた本

いわさきちひろは、幼いときに読んだ本の感動を忘れずに、大人になってから、本を子どもたちに届ける側の人となりました。若いころに読んだアンデルセンや宮沢賢治の童話のほか、万葉集なども、新たに絵本として描いています。ちひろの読んだ本と、描いた本を展示します。

1冊の絵本ができるまで

ちひろは、生涯に約40冊の絵本を手がけました。初めての絵本『ひとりのできるよ』（福音館書店、1957年）や、文も書いた至光社の「感じる絵本」のシリーズから『となりにきたこ』（至光社、1970年）などを展示し、当時の絵本の背景や、編集者のことばなどもあわせて紹介します。

展示担当者からひとこと

ちひろの描く、「本を読む人」の絵には、本と人への愛情、あたたかい眼差しが感じられます。それを紹介したい！と思って展示を企画しました。それぞれの人がもつ、本への想いを想像し、本に関わる全ての人へ感謝と敬意をこめて。

出展作品数

約100点

初展示
作品！



3 いわさきちひろ 本を読む母と子
『ね、おはなしよんで』（童心社）より
1962年



4 いわさきちひろ 美登利
『たけくらべ』（童心社）より 1971年



5 いわさきちひろ 手紙をポストに入れる男の子
『ひとりのできるよ』（福音館書店）より 1956年



6 いわさきちひろ 引越しのトラックを見つめる少女『となりにきたこ』（至光社）より 1970年



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 田邊・山本・松本・小林

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773（業務用） FAX 0261-62-0774

E-mail : apubcity@chihiro.or.jp

ヒロシマ トマト

つかさ おさむ

司 修 展

<同時開催>

ちひろ 本を読む人 描く人

ちひろ美術館コレクション 生誕 220 年 アンデルセンの絵本

2025年9月5日(金)～11月9日(日)

安曇野ちひろ美術館 展示室 4

主催：ちひろ美術館

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、
日本児童図書出版協会、信濃毎日新聞、市民タイムス、abn長野朝日放送、
長野エフエム放送株式会社

協力：岩波書店、偕成社、県立神奈川近代文学館、群馬県立近代美術館、前橋文学館



7 司修 『まちなと』(松谷みよ子・文 偕成社)より 1978年／1983年 ちひろ美術館蔵

よしこちゃんが
やけどで
ねていて
とまが
たべたいというので
お母ちゃんが
かい出しに
いつている間に
よしこちゃんは
死んでいた
いもばっかしたべさせて
ころしちゃったねと
お母ちゃんは
ないた
わたしも
ないた
みんなも
ないた
小学校五年 佐藤 智子

原爆投下から80年、司修の作品をとおして感じる、考える

1936年に群馬県前橋市で生まれた司修は、幼少期を戦争のなかで過ごし、9歳で空襲を体験しました。戦中戦後に刻まれた生々しい記憶は、彼の原動力となり、戦争体験者として、また今を生きるものとして、問題意識を抱えながら折々に感じるものを表現し続けてきました。司の作品は絵本や絵画にとどまらず、本の装幀、小説、批評、映像やインスタレーションなど幅広いジャンルに及び、そこからは、ものごとを深く見つめ、常に新たな挑戦をしている姿が伝わってきます。

戦争も司が長年取り組み続けたテーマでした。『まちなと』(松谷みよ子・文 偕成社 1978年／1983年)は、1945年8月6日の朝、広島で被爆してトマトをねだりながら亡くなった少女を主人公にした絵本です。本展では、『まちなと』を核としながら、初期から近作までの作品を展示し、89歳のいまでも思索と表現を続ける司修の世界を紹介します。



8 司修 『まちんと』(松谷みよ子・文 偕成社)より
1978年/1983年 ちひろ美術館蔵



9 司修 『まちんと』(松谷みよ子・文 偕成社)より
1978年/1983年 ちひろ美術館蔵



10 司修 ギュスターヴ・モロー美術館の亀
2018年 個人蔵



11 司修 『河原にできた中世の町へんれきする人びとの集まるどころ』
(網野 善彦・文 岩波書店)より 1988年 県立神奈川近代文学館蔵



12 司修 『雁の童子』
(宮沢賢治・作、偕成社)より
2004年 個人蔵



13 司修 『《絵本》銀河鉄道の夜』
(宮沢賢治・作 偕成社)より
2014年 個人蔵

展覧会の見どころ 広島・長崎の原爆をテーマに

「過去のことは忘れて未来を語らねば、という人たちが増えている。たしかに人間には未来が大切である。が、忘れてはならないものがある。それなしでの未来など虚像にすぎない。」*と司修は記しています。忘れてはならないものとして、司は広島や長崎の原爆を繰り返し表現してきました。児童文学『ふたりのイーダ』(松谷みよ子・文、講談社、1976年)や絵本『まちんと』(松谷みよ子・文、偕成社、1978年/1983年)の原画、油彩画、インスタレーションなどを展示します。

*『夢の中の遠い声』(法蔵館 1993年)より抜粋

宮沢賢治の童話の絵本原画を展示

1969年に『宮沢賢治童話集』(実業之日本社)の絵を依頼されたのをきっかけに、司修は賢治の生き方や作品に深く魅せられ、数多くの童話に絵を描きました。『注文の多い料理店』(1975年)、『雁の童子』(2004年)、『《絵本》銀河鉄道の夜』(2014年)など、独自の解釈と異なる技法で描かれた宮沢賢治の絵本のための作品を紹介します。

「夢」にまつわる絵とエッセイも

「夢」に関する100組の絵とエッセイをまとめた『私小説・夢百話』(岩波書店)が2023年に出版されました。幻想的な絵とともに、司がこれまでに会った人々、美術や文学、旅した土地、戦争の記憶、社会問題などのさまざまな話が、夢と記憶、現実が交錯しながら語られていきます。そのなかから約15組の絵とエッセイを紹介します。

展示担当者からひとこと

日本では戦後80年といわれますが、世界ではこの80年の間にも、戦火が絶えることはありませんでした。そして今、第二次世界大戦後もっとも多く、紛争が発生しているといわれています。戦中戦後の記憶を抱えながら、戦争やいのちについて思索し、表現し続けてきた司修の作品の声に耳を傾けてください。

出展作品数

約90点



撮影：中島美江子

司修 Osamu Tsukasa 1936-

前橋市に生まれる。画家、小説家、法政大学名誉教授。中学卒業後、独学で絵を学び、絵画や版画をはじめ、絵本、書籍の装丁、挿し絵など多岐にわたる作品を発表。小説やエッセイ、脚本など文筆分野でも活躍。絵本に『みにくいあひるのこ』『河原にできた中世の町』『雁の童子』『ぼくはひとりぼっちじゃない』など。1978年『はなのゆびわ』で小学館絵画賞、1989年『まちんと』でライブチヒ国際図書デザイン展金賞、1993年小説「犬」で川端康成文学賞、2006年小説『ブロンズの地中海』で毎日芸術賞、2011年エッセイ『本の魔法』で大佛次郎賞、2016年イーハトーブ賞など受賞多数。2011年個展「司修のえものがたり——絵本原画の世界」(群馬県立近代美術館)開催。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 田邊・山本・松本・小林

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773(業務用) FAX 0261-62-0774


E-mail: apubcity@chihiro.or.jp

ちひろ美術館コレクション

生誕220年 アンデルセンの絵本

<同時開催>

ちひろ 本を読む人 描く人

ヒロシマ  トマト ^{つかさ おさむ} 司 修 展

2025年9月5日(金)～11月9日(日)

安曇野ちひろ美術館 展示室3

主催：ちひろ美術館



15 クヴィエタ・パツォウスカー (チェコ)
『すずの兵隊』より 1985年



16 カーリナ・カイラ (フィンランド)
『白鳥の王子』より 1990年



14
ヤナ・キセロヴァー＝シテコヴァー
(スロヴァキア)
『おやゆびひめ』より 2001年

世界の国々の画家が描いた、
アンデルセンの世界を見てみよう

今年はデンマークの童話作家、ハンス・クリスチャン・アンデルセンの生誕220年にあたります。「アンデルセンの童話」と聞いて、どのお話を思い浮かべるでしょうか? 「おやゆび姫」や「人魚姫」「すずの兵隊」などの物語は時代を超えて読み継がれ、世界中の画家たちによって絵に描かれています。本展では、ちひろ美術館コレクションのなかから、世界の絵本画家がアンデルセンの物語を描いた作品を展示します。個性豊かな画家たちがそれぞれに想像力をふくらませて描いたアンデルセンの世界をお楽しみください。

展示会の見どころ

『おやゆびひめ』より「H.C. アンデルセンにささげる」ヤナ・キセロヴァー＝シテコヴァー (スロヴァキア)

テンペラやカラーインクを使い、布の上に登場人物の表情や衣装などを緻密に描いています。細かなところまで見ていくと、さまざまな発見がある作品です。

『すずの兵隊』よりクヴィエタ・パツォウスカー (チェコ)

パツォウスカーは絵本を「立体的な造形物」ととらえ、独自の制作活動を行った画家。1992年子どもの本の国際的な賞、国際アンデルセン賞画家賞を受賞しています。「すずの兵隊」の物語も、自由な形や鮮やかな色彩で、独自の世界を描いています。

展示担当者から
ひとこと

アンデルセンの物語の作品といっても、描く画家により印象はそれぞれ違います。本展は「おやゆびひめ」「マッチ売りの少女」「雪の女王」「ナイチンゲール」「白鳥の王子」「すずの兵隊」「にんぎょひめ」の7つの物語の作品を集めました。世界各国の絵本画家がいざなう、それぞれの物語の世界をご覧ください。

出展作品数

約30点



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 田邊・山本・松本・小林

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773 (業務用) FAX 0261-62-0774

E-mail: apubcity@chihiro.or.jp

展覧会関連イベント

●ギャラリートーク

日時：9月20日（土）／10月18日（土）／11月2日（日） 14：00～14：30

参加費：無料（入館料別）／定員：20名／申し込み：不要

開催中の展覧会の見どころを学芸員がわかりやすく解説します。

●ちひろの水彩技法ワークショップ

にじみのしおりづくり

日時：9月28日（日） 第一部：13：00～14：00

第二部：15：00～16：00

会場：安曇野ちひろ美術館 子どもの展示室

定員：各回12名／参加費：500円（入館料別）

申し込み：要事前予約（公式サイト／TELにて）

いわさきちひろが得意としていた水彩技法の「にじみ」を体験し、好きな部分を切り抜いて、しおりと缶バッジをつくりまします。



●松本猛 講演会

「絵本とは何か—起源から表現の可能性まで」

共催：松川村図書館

日時：11月3日（月・祝）13:30～15:00

会場：安曇野ちひろ美術館 絵本の部屋／オンライン

定員：会場50名 オンライン100名

参加費：会場 500円（入館料別）／オンライン 500円

申し込み：要事前予約（9/5（金）より公式サイト／TELにて）

いわさきちひろのひとり息子であり、当館の常任顧問をつとめる松本猛の新刊『絵本とは何か—起源から表現の可能性まで』（岩波書店）の出版を記念して、講演会を行います。驚きに満ちた絵本の表現の世界をいっしょに旅しませんか？



●あかちゃんとおでかけしよう！

ファーストミュージアムデー

日時：11月8日（土）10：00～11：00

参加費：無料（入館料別）／定員：親子10組

対象：0～2歳児と保護者

申し込み：要事前予約（公式サイト/TELにて）

あかちゃん絵本の読み聞かせや展覧会のギャラリーツアーを親子で楽しみまします。



会期中のイベント

●インドネシアの絵本画家 イペ・マルフ 再発見

日時：9月6日（土）14：00～15：30

参加費：無料（入館料別）※オンライン配信予定

講師：リアマ・マスラン・シホンビン（バンドン工科大学准教授）

エヴェリン・ゴザリ（絵本画家・デザイナー）

申し込み：要事前予約（公式サイト/TELにて）

イペ・マルフ（1938～）は、インドネシアの「スケッチの王様」として知られ、1960年代からインドネシアの子どもの本の画家として活躍しました。彼の功績と文化保存をチームで調査をしている、バンドン工科大学のリアマ准教授によるトーク、彼が絵を手がけた詩のインドネシア語での朗読や、インドネシアの絵本の現在についての紹介などを行います（通訳あり）。

会期中のイベント

●絵本のじかん

日時：9月6日（土）・10月4日（土）・11/1（土）

11：30～12：00

参加費：無料（入館料別）／定員：20名

申し込み：不要

絵本の読み聞かせを行います。あかちゃんから大人まで、どなたでもご参加いただけます。

●敬老の日

日時：9月15日（月・祝） 10：00～17：00

この日、65歳以上の方は入館料が無料となります。受付にてお申し出ください。

●ちいさなおはなしの会 at 絵本カフェ

日時：9月23日（火・祝） 11：00～

参加費：無料（入館料別）／定員：20名

申し込み：不要

絵本カフェにて絵本の読み聞かせを楽しみましょう。

●長野県民感謝デー

日時：11月9日（日） 10：00～17：00

日頃の感謝を込めて、長野県にお住まいの方は、入館が無料になります。

※受付でご住所のわかるものをご提示ください。

安曇野ちひろ公園イベント

●おでかけホリデー

日時：9/27（土）・10/25（土） 10：00～15：00

食体験やおさんぽ会、マルシェなどを開催します。

※安曇野ちひろ公園：TEL.0261-85-8822

最新情報：chihiro-park.org

展覧会基本情報

展覧会名	ちひろ 本を読む人 描く人 じろしや つかさ トロト 司 修 展 ちひろ美術館コレクション 生誕220年 アンデルセンの絵本
会期	2025年9月5日（金）～11月9日（日） ※会期は予告なく変更になる場合があります。 ○開館時間＝10：00～17：00 ○休館日＝水曜日（祝休日は開館、翌平日休館）
入館料	大人1200円／18歳以下・高校生以下無料 団体（有料入館者15名以上）、65歳以上、学生の方、18歳以下の子どもの同伴する保護者（子ども1名につき2名まで）は900円／障がい者手帳ご提示の方とその介添えの方（1名）は無料／年間パスポート3000円
交通	○電車の場合＝JR大糸線信濃松川駅より約2.5km（タクシー5分、レンタサイクル15分、徒歩30分） ○車の場合＝長野自動車道安曇野I.C.より約30分

※上記のイベントおよび開館情報は予告なく変更になる可能性がございます。

最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お電話でお問い合わせください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp



お問い合わせ

広報担当 田邊・山本・松本・小林

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24

TEL.0261-62-0773（業務用） FAX 0261-62-0774

E-mail：apublicity@chihiro.or.jp